

令和3年度 第1回 第2期健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	令和3年10月27日（水）18時～20時
開催場所	横浜市役所18階 なみき6・7会議室
出席者	第2期健康横浜21推進会議委員 18人（資料1）
開催形態	公開（傍聴者2人）
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 新委員紹介及び会長選出</p> <p>4 議 事</p> <p>【議事1】第2期健康横浜21の計画期間について</p> <p>【議事2】健康に関する市民意識調査の結果について</p> <p>【議事3】第2期健康横浜21最終評価に向けた目標値の収集状況について</p> <p>【議事4】第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会の開催状況</p> <p>【議事5】歯科口腔保健推進検討部会の開催状況及びオーラルフレイル 予防推進事業の取組について</p> <p>【議事6】食育推進検討部会の設置について</p> <p>【議事7】各団体の重点取組について</p> <p>5 その他</p> <p>今後のスケジュールについて</p> <p>6 閉 会</p>
決定事項	<p>【会長の選任】会長は豊福委員が選任された</p> <p>【副会長の指名】副会長は田口委員が指名された</p> <p>【第2期健康横浜21の計画期間】1年延長することとなった</p>
開 会	<p>（健康福祉局健康安全部 嘉代部長）</p> <p>ただいまより「令和3年度第1回 第2期健康横浜21推進会議」を開催する。</p> <p>まず始めに、これまで長きにわたり本会議の会長及び副会長をお務めいただいた、会長の横浜市医師会の渡辺様、副会長の横浜市食品衛生協会の松谷様、もうお一人の副会長の川崎市立看護短期大学の荒木田様が、退任された。</p> <p>後ほど、新たな会長をお決めいただくが、それまで司会を務めさせていただきます。</p> <p>本日の会議について、公開とさせていただきますこと、および議事録作成のため、議事内容を録音させていただきますことについて、御了解いただきますようお願いする。</p> <p>次に、事務局から定足数について御報告する。本会議は、横浜市附属機関設置条例の規定に基づき、健康横浜21の推進及び評価・策定に関する事務を行う場である。当会議の委員総数は20名で、本日は現時点で17名の委員が出席している。</p> <p>資料2 健康横浜21推進会議運営要綱第6条第3項の規程に基づき、過半数を満たすため、本会議が成立していることを報告する。</p>
挨拶	（横浜市 田畑保健所長）

	<p>市民の健康づくりの推進について、日頃から様々な形で御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。また、5名の新しい委員の方をお迎えすることができました。</p> <p>この夏の新型コロナ第5波は、これまで経験したことがないほど、すさまじいものがあった。横浜市では、8月16日に1日だけで1,272人の感染者が出た。現在は1日あたりの患者数が一桁の発生となるまで収まっている。従来と比べて、非常に強い感染力の株が急速に拡大し、若くても重症化する方の多さを目の当たりにした。重症化するリスクとしては、肥満、糖尿病、高血圧、喫煙、悪性腫瘍などとされており、日頃的生活習慣が大きく関わっていることがわかっている。改めて、健康づくりの大切さがクローズアップされた。</p> <p>本日の会議では、今年の1月に実施した「健康に関する市民意識調査」の結果を御紹介する。その調査結果を踏まえて、現行の計画で掲げてきた数値目標が、この約10年間にどのように変化したのかなど、最終評価の進捗状況を御報告する。また、委員の皆様の団体が、このコロナ禍において試行錯誤しながらも、鋭意推進してくださった取組についての情報共有も願います。</p> <p>本日は限られた時間ではあるが、市民の健康づくりを一層推進していくために、活発な議論をお願いしたい。</p>
<p>委員紹介 及び 会長選出</p>	<p>(事務局)</p> <p>今年度に入って新たに任命された5名の委員を御紹介する。(資料1)</p> <p>横浜市保健活動推進委員会の蟹澤委員、慶應義塾大学健康マネジメント研究科看護医療学部の田口委員、一般社団法人横浜市医師会の豊福委員、横浜市PTA連絡協議会の長谷山委員、一般社団法人横浜市食品衛生協会の鏑田委員。</p> <p>事務局について、主にこの会議を担当する職員のみ御紹介する。健康づくり担当課長岩松、健康づくり担当係長矢島。他に、資料1の裏面に記載している関係局・区の課長が出席している。</p> <p>まずは会長の選任に入る。</p> <p>資料2の要綱第5条第1項に基づき、互選にて会長の選出をお願いしたいが、御意見はあるか。</p> <p>(瀬戸委員)</p> <p>横浜市医師会の豊福委員を推薦する。</p> <p>(事務局)</p> <p>瀬戸委員から推薦があったが、豊福委員どうか。</p> <p>(豊福委員)</p> <p>了承。</p> <p>(事務局)</p> <p>それでは、豊福委員に会長をお願いする。これからの進行は豊福会長に願います。</p>
<p>副会長 選出</p>	<p>(豊福会長)</p> <p>よろしく申し上げます。</p> <p>資料2の要綱第5条第3項において、「会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。」と規定されている</p>

	<p>ため、副会長は私から指名する。</p> <p>通常は2名の方に副会長をお願いするが、本日が初めての会議となるため、本日はまず1名の副会長を指名させていただく。もう一人の委員は次回の会議で決めたいと思う。</p> <p>慶應義塾大学の田口委員に副会長をお願いしたいと思う。田口委員いかがか。</p> <p>(田口委員)</p> <p>了承。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>田口委員ありがとうございます。他の委員の皆様もよろしいか。</p> <p>(一同)</p> <p>異議なし。</p>
議 事	<p>【議事1】 第2期健康横浜21等の計画期間の延長について<資料3> 事務局から資料3について説明</p> <p>(豊福会長)</p> <p>事務局案の通りで了承としてよいか。</p> <p>(一同)</p> <p>異議なし。</p>
	<p>【議事2】 健康に関する市民意識調査の結果について<資料4> 事務局から資料4について説明</p> <p>(瀬戸委員)</p> <p>前々回や前回と比較し、インターネットによる調査を導入した今回の調査では年配者の回答率が高くなっているが、若年層への調査が減っているように見えるのはなぜか。</p> <p>(事務局)</p> <p>インターネット調査は1万人の調査とし、有効回答数が1万件に達したところで調査が終了になっている。そのため、この数値となっている。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>今後はインターネット調査をメインにしていく予定なのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>今回は、従来と同様の手法として、郵送調査とインターネット調査を併用したが、第3期に向けては調査方法から改めて考える予定。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>インターネット調査の方が集計に時間がかからないのでは。</p> <p>(事務局)</p> <p>集計はしやすい。また、インターネット調査の場合は、紙媒体での調査と比較しエラー件数が少ない。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>歯科医師会でもDX化を進めていきたい意向があるが、現時点ではデジタルに対</p>

	<p>して拒否反応を示す人もいる。そのような人を取りこぼしてはいけないと考えるため、DXの推進がなかなか難しいと考えている。</p> <p>歯科分野についての質問だが、なんでも噛んで食べることができる人の割合の調査について、対象者の歯が自分の歯なのか、義歯やインプラント等なのかは混ざっているのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>現時点では、どのような歯の状況の方なのかまで結びつけることが出来ていない。今後、歯科医師の先生方にも相談しつつ、検討したい。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>対象者の歯の状況別にオーラルフレイルやフレイルについて考える必要がある。自分の歯がある人は、医科への受診が少なく、医療費の削減につながるなど発展できる場所があれば良いと考える。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>次の市民意識調査への意見をいただいた。この意見を次へ生かしてほしい。</p>
	<p>【議事3】第2期健康横浜21最終評価に向けた目標値の収集状況について <資料>5 事務局から資料5について説明</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>何か意見、質問がある委員はいるか。</p> <p>(一同)</p> <p>なし。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>最終評価に向けてさらなる分析をすすめるようお願いする。</p>
	<p>【報告4】第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定部会の開催状況について <資料>6 事務局から資料6について説明</p>
	<p>(田口副会長)</p> <p>横浜市健康課題を明確に示すことは重要。横浜市は広く、18の行政区がある。それらすべてをまとめて評価するのが妥当なのか等についても議論があった。そこは重要な観点であると考えている。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>これからさらに具体的に評価、策定について話が進んでいく予定。適宜、本検討会の委員の皆さまにも報告する。</p>
	<p>【議事5】歯科口腔保健推進検討部会の開催状況及びオーラルフレイル予防推進事業の取組状況について <資料7> 事務局から資料7について説明</p>
	<p>(佐藤委員)</p> <p>関係団体と話ができる良い機会となっている。第2期健康横浜21は、新型コロナウイルスの影響で1年延長ということになったが、より熟考出来ると考えてい</p>

	<p>る。すべてのライフステージに介入することが大切であると考えており、保健活動推進員等にも協力を得ている。高齢者だけでなく、生まれる前からの介入が必要。歯がない乳児の段階から、授乳方法や離乳食の食べさせ方によって歯並びに影響が出る。</p> <p>市民一人ひとりが自覚をもって歯や口の健康を考えてもらえるよう、歯・口腔に対する意識向上が必要。そのためには、健康無関心層といわれる方々や、若い世代に対して、それぞれの対象にあったアプローチ方法を考える必要がある。</p> <p>また、コロナ禍において歯科検診の受診控えが目立ったが、歯科医師は日頃から感染症を持つ患者への診療は実施しており、知識もある。歯科医院は、安心して通える場所であることを周知したい。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>大切な問題についてお話いただいた。情報発信の方法や使用する媒体についてよく検討してほしい。</p>
	<p>【議事 6】食育推進検討部会の設置について<資料 8> 事務局から資料 8 について説明</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>横浜市医師会からは学校医の担当が食育推進検討部会に出席している。食育については、学校だけでなく家庭の問題が大きい。子どもだけでなく市民全体への啓発が必要。</p>
	<p>【議事 7】各種団体の重点取組について</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>ここからは田口副会長へ司会を依頼する。健康横浜 2 1 の推進に向けて皆さまと議論を深めていきたいと思う。</p> <p>(田口副会長)</p> <p>次第 4 議事 (7) の進行を担当する。</p> <p>先ほど事務局から、計画期間の延長や、市民意識調査の結果、第 2 期健康横浜 2 1 の目標値の収集状況等について説明があった。現行の第 2 期健康横浜 2 1 は、令和 5 年度までの 2 年余りとなっているが、各団体において健康横浜 2 1 の推進に向け、様々な取組を進められている。</p> <p>各団体のこれまでの取組状況や今後の重点取組について、御発言をいただきたい。資料 9 を参考にしながら、各団体から取組の報告をお願いする。</p> <p>(西田委員)</p> <p>JA 横浜の西田です。去年は新型コロナウイルス感染症の影響で「めざせ！健康寿命 100 歳～農協 DE 脳強～」はすべて中止になってしまった。イベント類については、若年層と高齢者と分けて実施したいと考えている。若年層にはヨガ等が人気で、高齢者には脳トレ、認知症予防等が人気。</p> <p>農協として、農業に親しんでもらいたいと考えており、「植えて、育てて、収穫をして」と収穫だけでない一貫した取り組みの中で、食育を広めたいと考えている。</p>

Instagramやホームページ等も使用して周知している。

横浜農協は市内に 50 店舗ある。それらを活用しながら、様々な団体、市民と協力しながら取組を進めていきたい。

(長谷川委員)

神奈川県栄養士会の長谷川です。食育はとても幅広い分野で、乳幼児から高齢者まで栄養士会の活動につながっている。各世代の目標にあわせた活動をしていたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響ですべての大きなイベントが中止となった。Web 開催やホームページ利用を始めており、市民活動フェアを Web 周知した。

また、中央卸売市場と協力して作成した「赤ちゃんと食べるお魚ご飯（とりわけ離乳食レシピブック）」というレシピ集を使い、おさかな離乳食料理教室を感染対策に配慮したうえで実施した。

また、高齢者に対するアプローチは地域ケアプラザと協力して活動している。

(長谷山委員)

横浜市 PTA 連絡協議会の長谷山です。子どもの食生活に重点を置き、「早寝早起き朝ごはん」の推進と、保護者の健康に係る取組を実施している。

日本 PTA 全国研究会、指定都市大会はオンラインによる縮小開催となった。関東ブロック研究大会もオンライン開催ではあったが、多くの保護者にも参加いただき、実施することができた。

横浜こどもお弁当コンクールは年々参加者が増加している。2019 年は 1,100 名程度だったが、2020 年は 1,483 名、2021 年は 1,680 名の応募があるなど市民の関心が高い。

ハマ弁については教育委員会と連携し、当日注文を可能にするなど、子どもにより良い昼食を届けられるようにしている。

(守分委員)

横浜市食生活等改善推進員協議会、通称ヘルスマイトの守分です。世代別に啓発をしているが、特に野菜摂取量の増加が上手くいかない。あと一皿野菜を食べるということを各世代へ伝えていきたい。

高齢者に対しては、フレイル予防も考えなくてはならない。フレイルに関する検討部会にも参加し話をしているが、フレイルを自分ごとと考えてもらうには、地域で活動する自分たちの取組が大切だと思っている。引き続き活動を推進していきたい。

18 区がウォーキングや運動習慣の定着を目指し、体操教室等を開催していたが、コロナ禍で実施出来なくなった。集団ではなく個人で実施するウォーキングについて啓発を行っている。

(鏝田委員)

横浜市食品衛生協会の鏝田です。食中毒に関して、18 区それぞれで予防キャンペーンを実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響でここ 2 年間実施できていない。各飲食店でアンケートを実施し行政に提出した。来年は今まで通り

の食中毒予防キャンペーンが出来たらよいと思っている。

(田口副会長)

アンケートはどのような内容のものだったのか。

(鏑田委員)

食中毒予防の啓発がメインのアンケート。

飲食店は年1回食品衛生責任者の講習を受けており、その中で受動喫煙防止に関する説明を受けている。昨年からは集合研修だけではなく、eラーニングが開始され、パソコンやスマートフォンから講習を受けられるようになった。ただ、年配の受講者はeラーニングによる講習を受けることのハードルが高い人も多いため、集合研修とeラーニングとの2本立てになっている。

(蟹澤委員)

横浜市保健活動推進員の蟹澤です。歯科医師会と協力しながら、歯科口腔事業の推進を18区で行っている。

禁煙・受動喫煙防止については、学校や駅などで保健師と協力しながら啓発や講習を実施した。

運動は、各区工夫をこらしてウォーキングポイント事業やスタンプラリー事業への協力と推進を行い、コロナ禍でも実施できる方法を考えながら実施している。特定健診・がん検診については「地域の健康づくり」をテーマとし、「感染予防に関する普及啓発」「特定健診・がん検診の普及啓発」「感染予防と地域活動の両立について」の3つをサブテーマとして取り組んだ。大人数で活動する際には感染対策に関するチェックシートがあり、それを活用しながらイベント等は行っている。

見守り活動も行っており、コロナ禍における認知症予防なども含めて健康づくり活動を続ける必要を感じている。

(佐藤委員)

横浜市歯科医師会の佐藤です。子育て世代へのアプローチを通して、第1子の歯と口の健康に関しては関心が高いものの、第2子以降は疎かになってしまう人が多い傾向にあり、第2子以降はむし歯が増えていることを問題視している。

また、口腔粘膜の健診が出来る歯科医師を増やす働きかけも必要。口腔がんは早期発見が治療予後においても、その後の患者のQOLにおいても重要。手術を行う時期が遅れると、手術による侵襲が大きくなるだけでなく、手術範囲が広がることで、術後に顔の様相が変化したり、話したり食べたりすることが困難になってしまう。

A YA世代はスマートフォンの使い過ぎや、塾通い等による生活習慣の乱れなどによって歯周炎が増えている。

噛むことは、健全な口腔機能獲得にとっても大きな役割を果たす。学び・育ち世代が、しっかり噛んで飲み込むことで歯並びが良くなり、肥満予防にも効果がある。しかし、小学校、中学校の昼食を食べる時間は短い。しっかり噛んで食べる時間が確保できているのか疑問。栄養と同じく、噛むことも重要。

オーラルフレイル予防に対しては、高齢者に向けて元気づくりステーションで口腔機能の向上のため、「パタカラ体操」を行っている。「パ」「タ」「カ」「ラ」の発音がしっかりできるかを確認する体操で、口腔機能の向上の他、誤嚥性肺炎の予防にもなる。

(河野委員)

横浜南労働基準監督署の河野です。働き方改革実行計画は多岐にわたるが、長時間労働の削減が最も大きな柱のひとつとなっている。100時間を超える時間外労働や2ないし6か月で80時間を超える時間外労働等の禁止が改正労働基準法により定められたが、この100時間、80時間という時間の基準は、必要な睡眠時間を確保できるか、を根拠としている。5時間未満、6時間未満の睡眠が健康リスクを高める要因とされているということであり、そういう意味では働き方改革は、睡眠と関りが深いといえる。

昨年4月から中小企業に対しても改正労働基準法が適応され、特に中小企業に対して、働き方改革の取組を支援することが最重要課題である。また、職場における産業保健活動やメンタルヘルス対策が適切に実施されるように周知・指導を実施している。

令和3年度は、ウィズコロナ時代に安全で健康に働くことができる職場づくりを目指し、職場における新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の取組も推進した。

(豊福会長)

横浜市医師会の豊福です。禁煙について、日本は諸外国と比べて取組が著しく遅れている。まずは医師が禁煙について正しい知識を持つという動きがあり、たばこに関する諸問題と最新の知見という医師向けのマニュアルを作成した。禁煙に対してどのように発信すべきか勉強している。

特定健診、がん検診は昨年新型コロナウイルス感染症の影響で止まってしまったため、その後の受診率向上に努めている。また、がん検診の制度を管理するというので、がん検診を担当する各医療機関が年1回の受講する研修を集合型ではなく ZOOM や YouTube を利用して勉強を欠かさないようにする体制を整えた。

(瀬戸委員)

横浜市薬剤師会の瀬戸です。喫煙・飲酒の啓発活動として横浜市禁煙支援薬局認定研修会を横浜市と共催で年1回開催し、薬剤師会会員薬局の中から禁煙支援薬局を認定している。

また学校保健事業として、学校薬剤師が喫煙・飲酒に関する講座を実施したり、健康まつりで禁煙相談を行い、依存度チェックを行っていた。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で、他団体と同様に活動がこれまで通りの活動は出来ない部分がある。

薬草探索健康ウォーキング横浜という市民と薬草を見ながらウォーキングを楽しむイベントを開催している。湘南台駅から横浜薬科大学の間約4kmを歩き、最後に薬草園を見学する予定。

今後は、禁煙はある程度進んでいるものの、子育て世代の女性の喫煙率が下げ止まっていることが課題とのことで、取組を続けていきたい。

(長谷委員)

禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議の長谷です。ネットワークづくりは進んでいるが、コロナ禍で5月31日の世界禁煙デー等のイベントや講演会は中止になっている。

改正健康増進法全面施行に係る受動喫煙防止対策の推進の支援については、法律の抜け道があることが現状で、それに関するチェックを行っている。加熱式たばこの規制強化への推進については、若い世代で流行してしまっていることを問題視している。国によっては販売禁止になっている所もあるため、正しい知識を普及し、規制強化を進めたい。未成年、教育関係者への喫煙防止教育の推進では、小中学生に向けて講義を重視して行っている。

かながわ健康財団と協力してかながわ卒煙塾を開催している。企業からの依頼に対しても対応できる体制をとっている。また市民向けの卒煙塾として、直近だと11月20日に「コロナ禍の今がチャンスです！禁煙するのは！！」という講演会を実施する予定。コロナ禍の状況で禁煙を勧めると、通常よりも禁煙に意識が向きやすいため、今はチャンスだと考えてさらに禁煙推進を進めていきたい。

(金子委員)

横浜市スポーツ協会の金子です。大きく分けて4つの方法で市民の健康に対して、様々な運動の機会提供をしている。1つ目は日産スタジアムや横浜武道館といった大型の施設・スポーツセンター等の施設管理を通じての機会提供。2つ目は横浜マラソンやトライアスロン等イベント事業を実施することによる機会提供。3つ目はオンライン事業やイベント情報の提供等、情報発信による機会提供。4つ目はスポーツ推進委員や保健活動推進員、食生活等改善推進員ら地域との協力・連携による運動の機会提供である。

コロナ禍では施設の利用動向が変化しており、現在、特に高齢者の利用は減少しており、活動の軸を変更しなければならないと考えている。家の近くで運動をしたいというニーズに対しては、アウトリーチ型の支援も行っていきたい。また、アクティブシニアといわれる新しいことにも積極的なシニア世代には、オンライン事業も有効になると考えている。

また、働き世代にも在宅勤務の普及によりライフスタイルの変化があるため、オンライン事業による運動の推進をしていきたい。

(玉村委員)

テレビ神奈川の玉村です。プロスポーツ、高校野球等の中継だけでなく、少年野球やママさんバレーの主催や放送を行っている。食育については食に関する放送は多くあり、例えばJAの提供で「かながわ旬菜ナビ」を放送している。最近では、その中で「はるみ米」や小松菜の紹介等を行った。

(長谷川委員)

神奈川新聞の長谷川です。「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」「海道ウォー

ク」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

例年行っているメディカルセミナーの参加者は高齢者が多く、オンライン開催だと必要とする人に情報がいきわたらない可能性を考え、座談会形式の紙面講演会という形をとった。

月に1回、健康情報の発信を行っている。がん征圧期間には AYA 世代に向けた健診啓発を行った。

(大宮委員)

健康保険組合連合会神奈川連合会の大宮です。神奈川連合会の 65%を占めるのが横浜市民。それぞれの健康保険組合が企業と一緒に様々な事業を実施して成果を上げている。神奈川連合会では、共同事業として様々な取組を行っている。また、保健師による健康相談と各種講習会を行っている。特に禁煙に関する講演は希望が多い。また、健康経営に関心がある企業は増えている。

(高塚委員)

神奈川県国民健康保険団体連合会の高塚です。特定健診受診促進への取組として、在宅保健師が市町村に出向いて電話による受診勧奨をしている。新型コロナウイルス感染症の影響で家にいる人が多く、例年よりも多くの方と電話が通じるようになった。国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組は、中間評価に係る研修会を行っている。

健康づくり推進への取組としては、保健師派遣と健康チェック機器等の貸し出しを行っている。地域のお祭りなどは中止になっていることが多いが、保健指導の対象者を少人数集めて栄養や運動について指導し、特定保健指導につなげていく取組を実施している。

(田中委員)

全国健康保険協会神奈川支部の田中です。「健診の促進」「保健指導の促進」「事業主等の健康づくり意識の醸成」「重症化予防対策」を掲げ、令和2年度までの状況を書いている。昨年は4、5月に健診の実施が出来なかったため、健診受診率の伸びが悪かった。令和元年度は少し良い状況だったが、従業員の人数が平均7名程度と少数の事業所が多く、業務の都合をつけられず健診を受けられない事業所もあった。人数が少ない事業所は、仕事がある日に健診に行けない職員や高血圧等気にかかる身体状態があったとしても、仕事が気がかりで受診できない職員がいる。加入者がより受診等をしやすい状況を作っていきたいと考えている。

(田口副会長)

コロナ禍で苦慮しながらも、それぞれの立場で工夫しながら取組を進められたことがわかりました。過度の自粛による健康二次被害といったことも指摘されている中ですので、引き続きの取組が重要です。ありがとうございました。

進行を豊福会長にお戻しします。

(豊福会長)

田口副会長ありがとうございました。

以上をもって議事がすべて終了した。進行を事務局へ返す。

	<p>【その他】今後のスケジュールについて<資料10> 事務局から資料 10 について説明</p>
<p>その他</p>	<p>閉会 (事務局) 御議論ありがとうございました。次回の会議は3月頃に開催予定。日程については後日調整する。 なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、緊急的な対応が必要となった場合など、やむを得ずスケジュールの変更を検討する場合があります。 豊福会長、田口副会長 議事の進行ありがとうございました。 これにて閉会とする。</p>